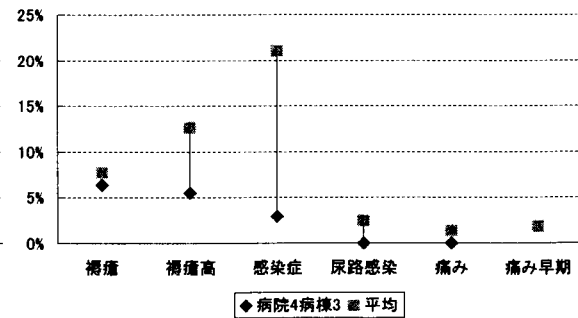
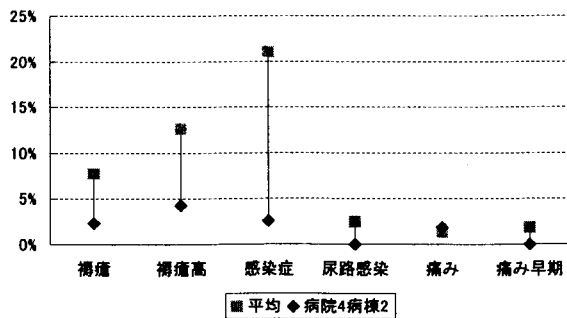
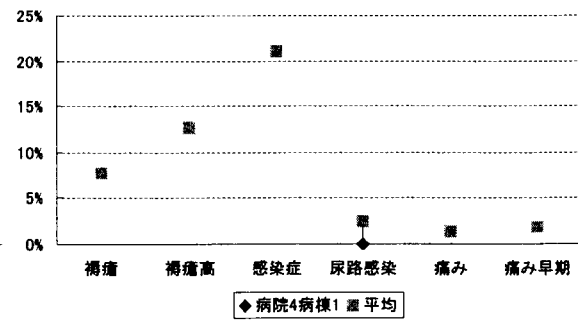
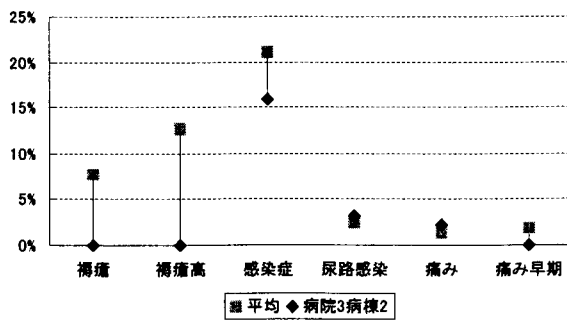
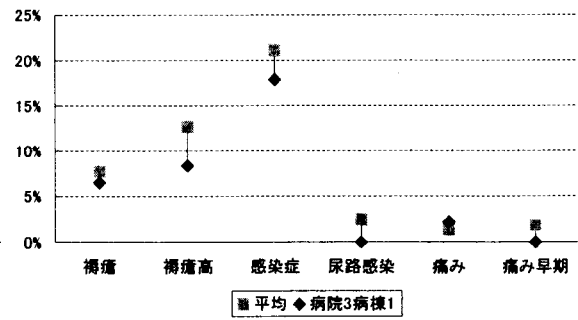
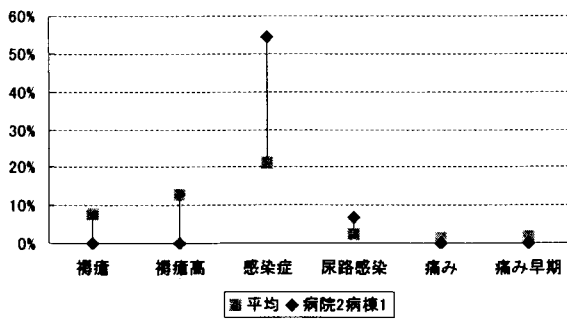
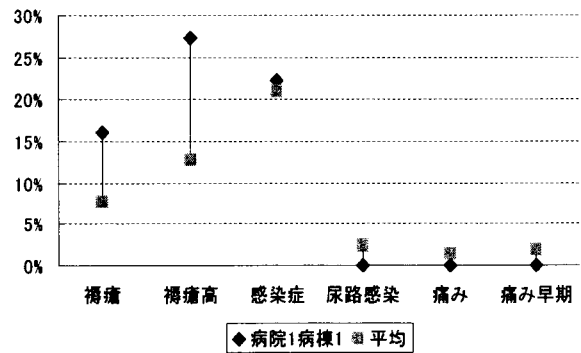


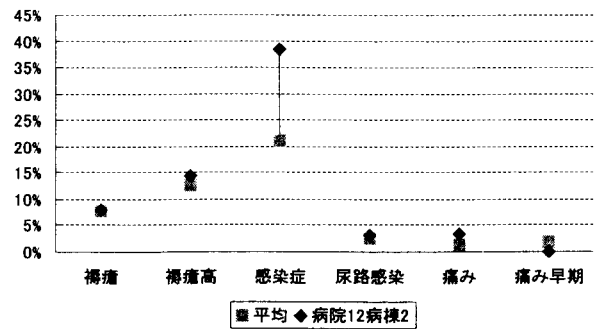
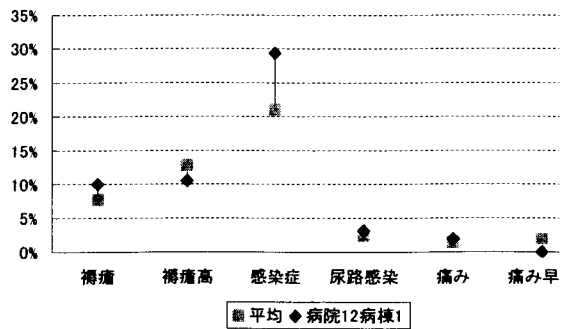
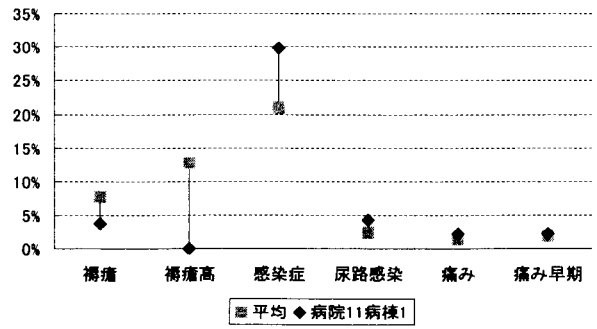
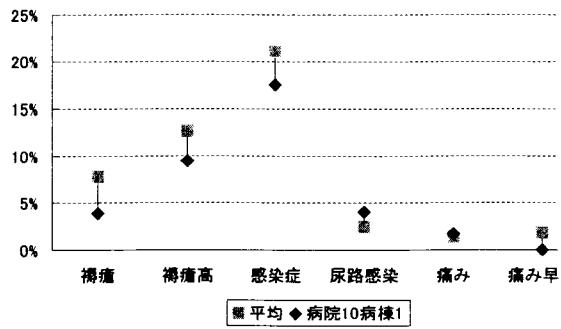
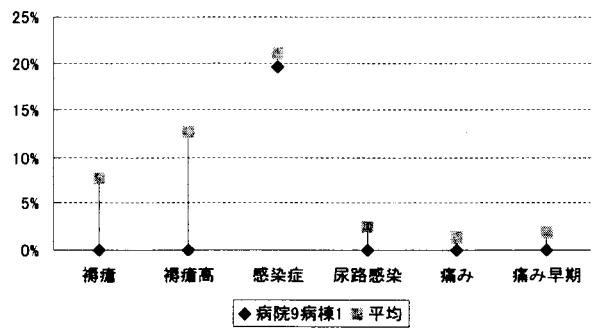
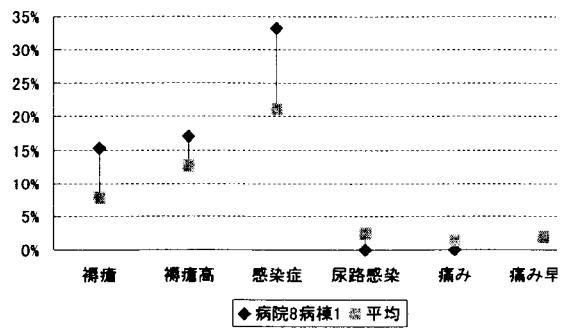
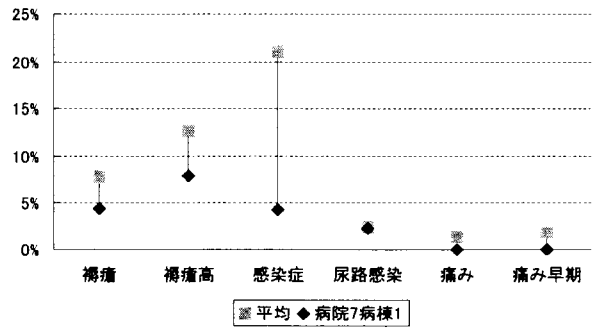
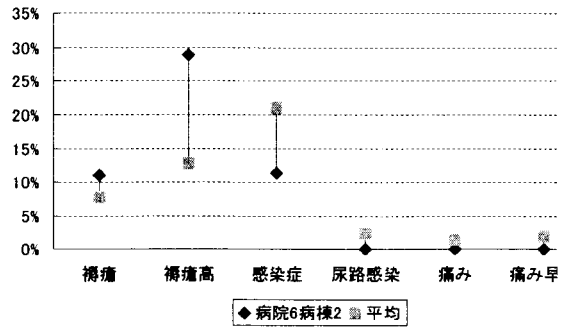
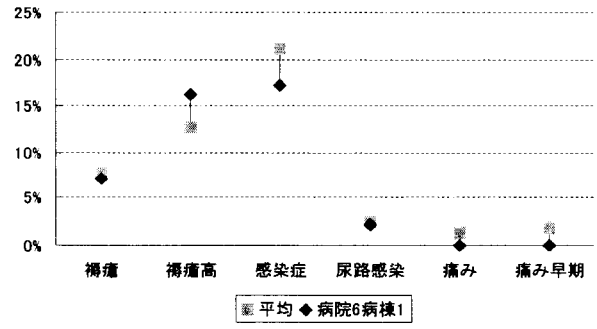
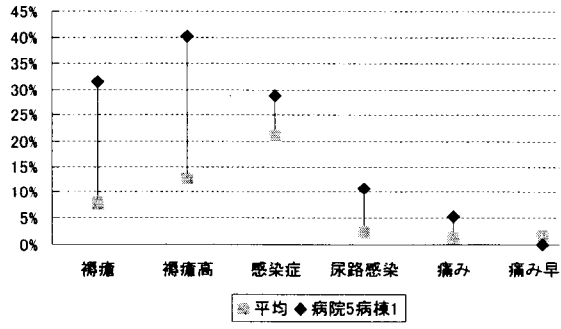
(4) 病棟別の結果

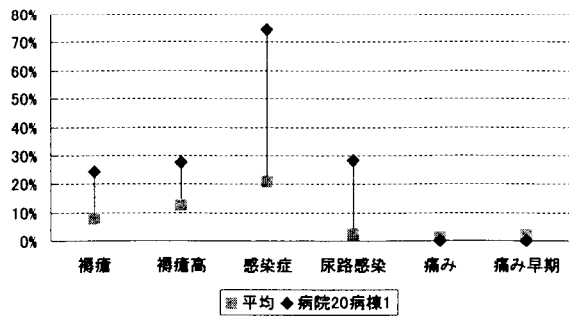
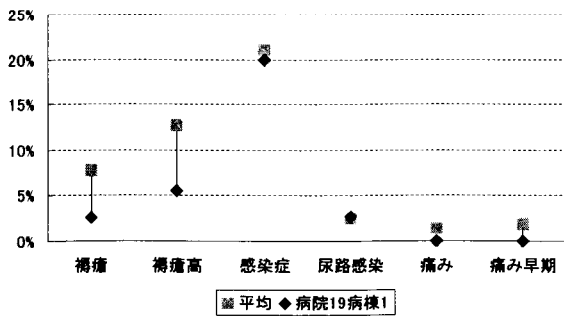
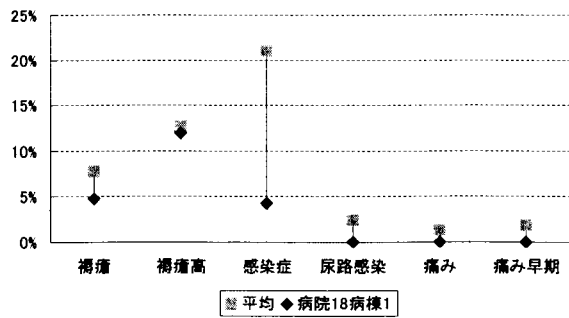
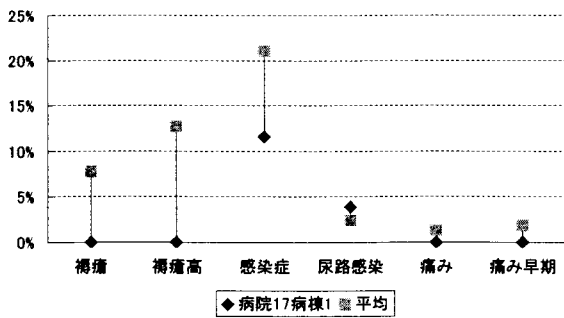
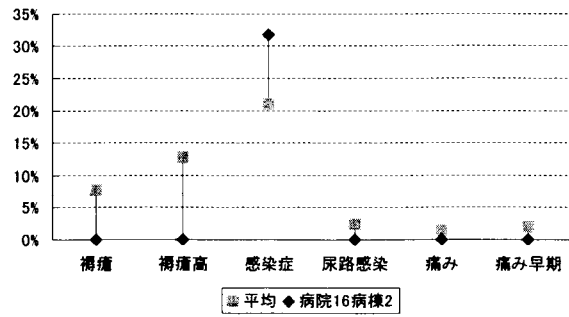
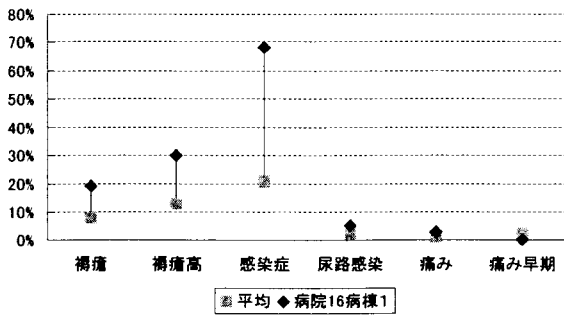
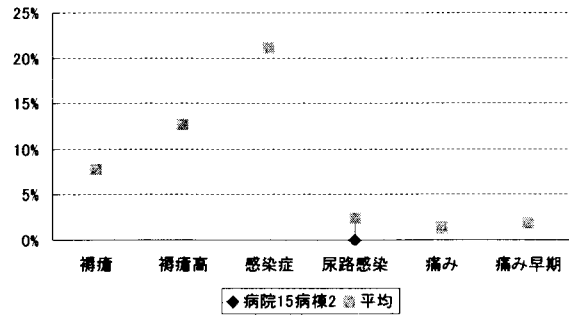
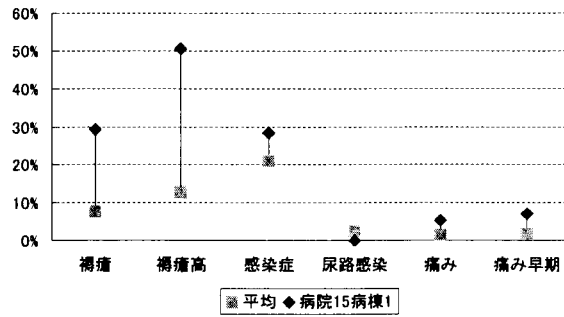
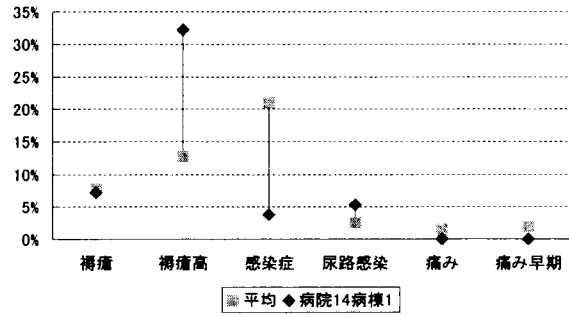
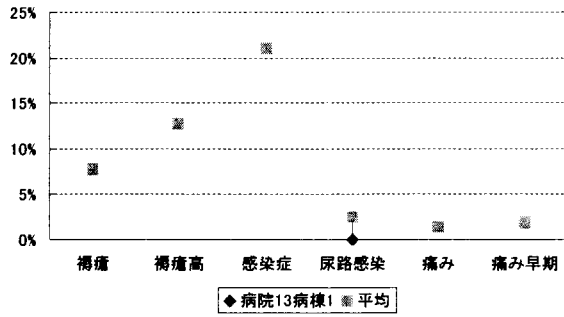
Q Iの結果を、各病棟におけるケアの質の向上（TQM活動）に役立てるためには、各病棟に対して、どのQ Iが優れているか、どのQ Iについては、今後改善が必要か、をわかるように示す必要がある。

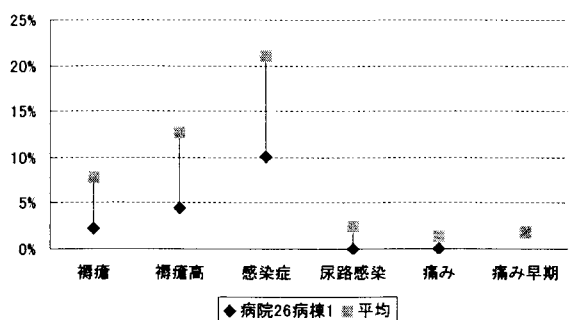
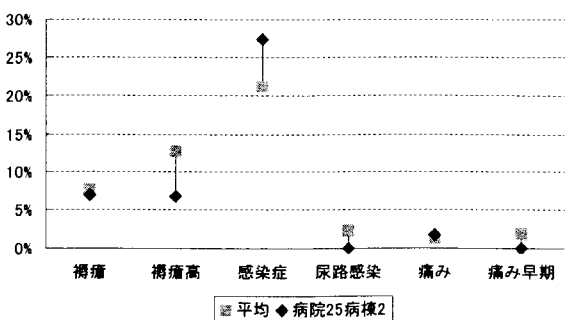
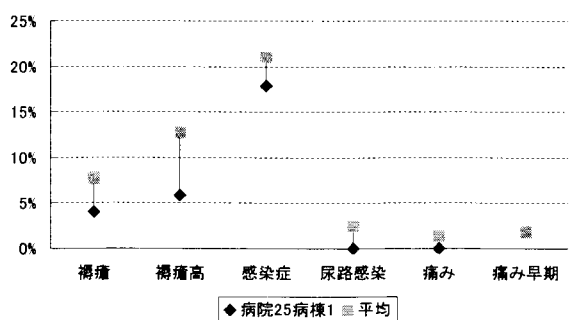
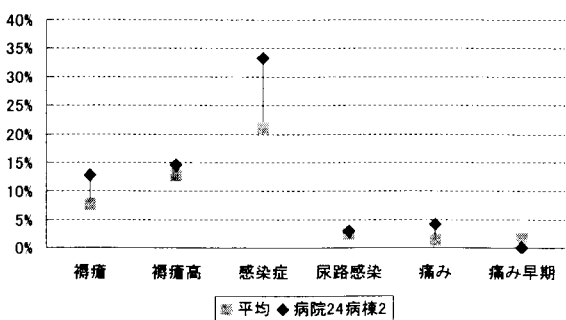
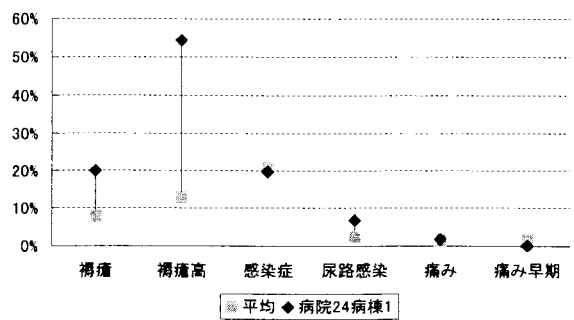
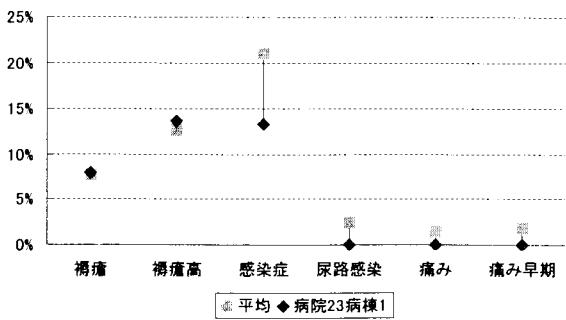
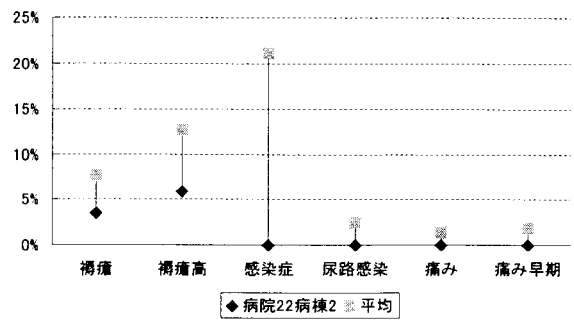
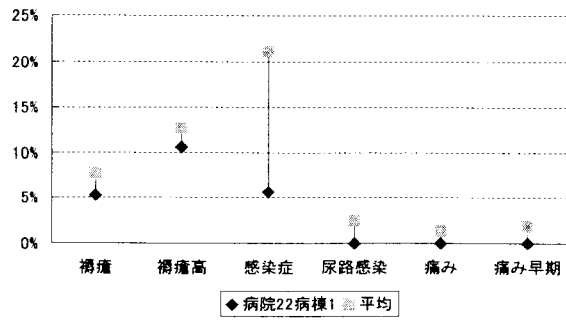
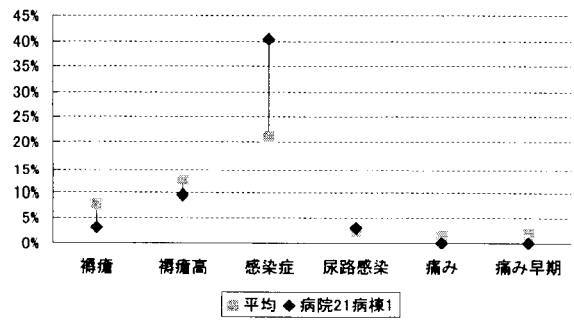
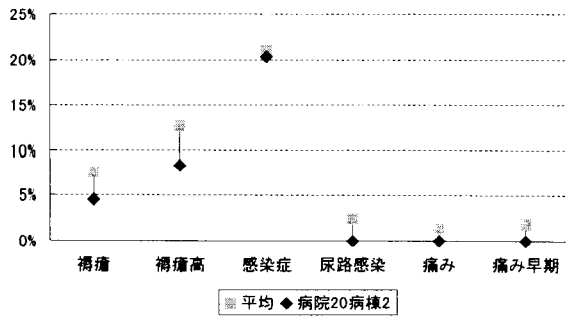
図VI-2は、病棟ごとに、すべてのQ Iを横に並び、当該病棟のQ I（◆）と、平均値（■）を示したものである。各病棟は、この図により、◆が■の上であれば、そのQ Iの分野のケアの質は低く、◆が■の下であれば、そのQ Iの分野のケアの質は高いことがわかる。なお、算出できなかったQ Iについては、平均値■のみを示した。

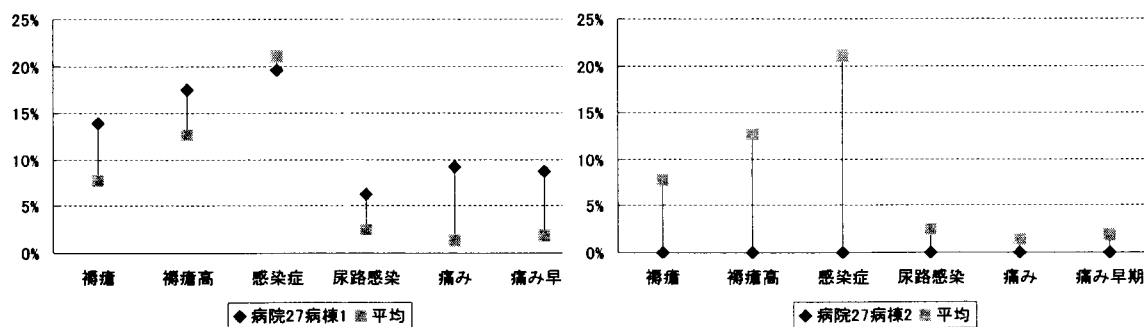
図VI-2 病棟別の結果











(5) Q I と人員配置及び CMI との関係

Q I の結果と、病棟の人員配置 (p45 参照) および CMI との関係は表 VI-5 に示すようになった。

表 VI - 5 Q I と人員配置及び CMI との関係

| | Q I | | | | | |
|------|-------|-------|---------|-------|-------|--------|
| | 褥瘡 | 褥瘡高 | 感染症 | 尿路感染 | 痛み | 痛み早期 |
| 人員配置 | -0.16 | -0.07 | -0.48** | -0.21 | -0.30 | -0.41* |
| CMI | 0.38* | 0.29 | 0.46** | 0.19 | 0.36* | 0.31 |

ピアソンの相関係数 *p<0.05 **p<0.01

人員配置との関係は、すべての Q I において負の関係であった。つまり、人員配置の多い病棟では、ケアの質が高いという関係性が認められた。一方で、CMI との関係は、すべての Q I において正の関係であり、手 (費用) のかかる患者の多い病棟では、ケアの質は低いという関係性が示された。しかし、p52 で示したように人員配置と CMI が逆相関している現状では、三者の因果関係の解釈は困難である。

(6) 今後の課題

たとえば、上記の病院 27 病棟 1 と病棟 2 を比較すると、病棟 1 (II 群一般 4) は、ほとんどの Q I において平均値よりも値が大きく、病棟 2 (療養 4) では、すべての Q I において値が小さい (0 = 分子への該当者がいない)。このように同じ病院の中で、ケアの質が大きく異なることは考えにくいので、こうした結果は、ケアの質の差を表しているのではなく、褥瘡や尿路感染があれば一般病棟に、それらが治れば療養病棟にと患者を転棟させている院内の実情を反映している可能性がある。

したがって、本報告書で算出したQ Iは、重症度の補正が十分でないために、ケアの質ではなく、単に重症度を示しているに過ぎない可能性があり、重症度補正の適切性については今後の課題となる。

なお、本調査研究では、Q Iの算出単位を病棟としたが、病院を単位とする方法も検討する必要がある。今後の課題として残る。病院を算出単位とすると、各病棟の特性が大きく異なる病院の場合に、Q Iの結果をTQM活動に役立てる際の解釈が困難になるというマイナス面がある一方で、各病院の転棟方針の影響を受けず病院のケアの質を評価できるというプラスの側面がある。病棟単位か病院単位かについても今後の課題である。